日本野鳥の会
カンムリウミスズメ
保護事業活動報告書

Annual Report 2014

日本野鳥の会は、１９９５年度から三宅島周辺に生息するカンムリウミスズメの調査を三宅島自然ふれあいセンター・アカコッコ館を拠点に行なってきました。創立７５周年を迎えた２００９年度からは、カンムリウミスズメを海洋環境保全のシンボルと位置づけて保護を進めています。
６年目を迎えた２０１４年度も継続して生息地の保護と個体数の増加を目標に事業を行ないました。

トピックス

- 繁殖期の個体数調査を実施
- 神子元島の人工巣を改良
- 定点カメラによる調査を実施

2014年度、当事業は赤羽基金、F氏カンムリ基金、当会会員及び一般の皆様からのご寄付で実施いたしました。

公益財団法人
日本野鳥の会
Wild Bird Society of Japan

カンムリウミスズメを守るために

おねがい

繁殖地にゴミを残さないで！

繁殖地に残されたゴミは島や海を汚すだけでなく、カラスなどの捕食者を島外から呼び寄せてしまいます。

カンムリウミスズメの営巣環境を守るために、釣りの餌や食べ物など、持ち込んだものは持ち帰るようにお願いします。

これからもカンムリウミスズメを守るために、繁殖地の保護区指定と繁殖個体数の増加をめざし活動を行なっていきます。

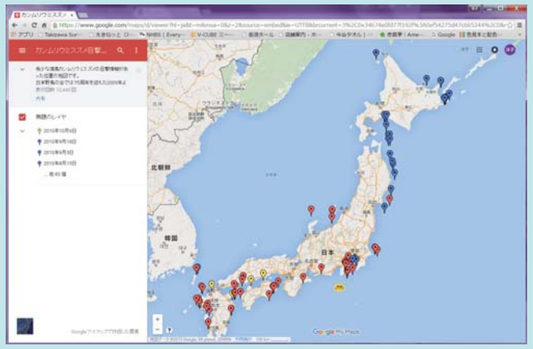
2015年度は
- ▶個体数調査
- ▶繁殖確認調査
- ▶目撃情報の収集
- ▶人工巣の設置
- ▶観察会、講演会など普及活動
- ▶普及ツールの作成

などを行なう予定です。

目撃情報の提供のお願い

カンムリウミスズメの目撃情報をホームページで募集し、地図にまとめています 。彼らが繁殖期を終えて北上する時の移動経路などを調べるためには、多くの情報が必要です。皆さまからの目撃情報をお待ちしています。

情報はこちらへ
https://www.wbsj.org/form/nature/sw/form.html

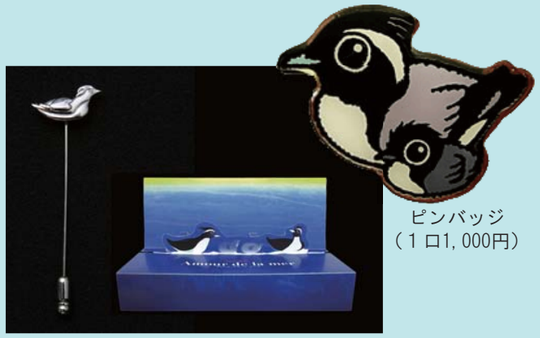


ホームページ「カンムリウミスズメを探してください！」にご提供いただいた目撃情報

ご寄付のお願い

カンムリウミスズメなど希少鳥類の保護を進めるための調査研究活動や、自然の大切さを伝えるための活動に役立てられます。ご寄付をしていただいた方にグッズをプレゼント。ご支援をよろしくお願いします。

ご寄付の申し込みは会員室へ
電　話　03-5436-2630
メール　kifu@wbsj.org
http://www.wbsj.org//support/kifu/index.html#kanmuri



ピンバッジ
（１口1,000円）

GINZA TANAKA特製シルバーブローチ
（１口5,000円）

日本野鳥の会について

当会は1934年に中西悟堂によって「野の鳥は野に」を旗印にどなたでも参加できる会員制の形で創設されました。その初心を引き継ぎながら野鳥とその生息地を守るために90の支部と会員、サポーターのご支援でさまざまな自然保護活動を行っています。生きものたちが、明日も10年後も100年後も、元気良く暮らしていけるように、皆さまもぜひ仲間になってください。

カンムリウミスズメ保護事業
活動報告書　2014年度

公益財団法人日本野鳥の会
保全プロジェクト推進室
東京都品川区西五反田３丁目９番23号 丸和ビル
TEL 03-5436-2634　FAX 03-5436-2635

2016年１月発行

カンムリウミスズメってどんな鳥？

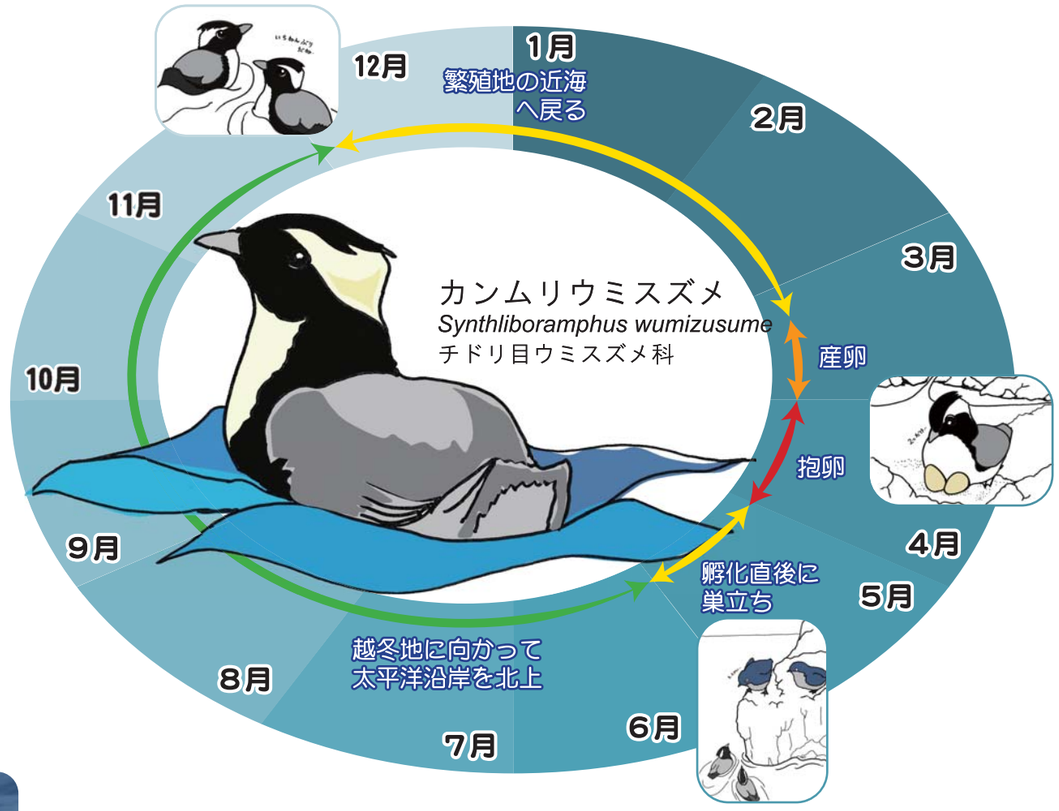
カンムリウミスズメは、日本近海にだけ分布し、暖帯海域で繁殖する唯一のウミスズメの仲間です。繁殖期にだけ営巣、抱卵のため繁殖地の島に上陸します。抱卵期以外は陸から遠く離れた海上で生活しています。その生態はまだ謎に包まれています。

カンムリウミスズメの一年

伊豆諸島で繁殖するカンムリウミスズメは、１月下旬になると繁殖地周辺の海に戻ってきます。この頃、立派な冠羽を持つ美しい繁殖羽になります。繁殖期が終わる６月を迎えると、黒潮の流れに乗って太平洋沿岸を北上して行きます。長く立派だった冠羽も次第に生え変わり、全体的に淡い灰色の非繁殖羽の姿に変わっていきます。

カンムリウミスズメ
の非繁殖羽

カンムリウミスズメ
の繁殖羽



保護指定：絶滅危惧Ⅱ類（VU）（IUCNレッドリスト）
　　絶滅危惧Ⅱ類（VU）（環境省レッドリスト）
　　国指定天然記念物
大きさ：全長２４cm
重　さ：約１６０g
鳴き声：「チュイ、チュイ」
　　「ジュリリ」など多様
採餌方法：非常に泳ぎが得意で、翼を羽ばたかせて潜水し、魚やプランクトンなどの小動物を捕まえて食べます。

※カンムリウミスズメがいつどこにいるのか全国の皆様にご協力いただいて目撃情報を集めています。
地図の赤い印は繁殖期に、青い印は非繁殖期に確認された地点です。目撃情報からカンムリウミスズメの移動の様子が見えてきました。詳しい移動の経路は、近年ジオロケーターを使った調査でだんだんと分かってきています。

カンムリウミスズメの子育て

基本的に一夫一妻で、多くは無人島の崖や急な斜面の岩と岩の隙間、木の根元、地面のくぼ地などに巣を作ります。

３月中旬から下旬に卵を１～２個産み、雌雄交代で約１ヶ月間抱卵します。

ヒナはふ化すると、１～２日のうちに親鳥の声に導かれて海に向かいます。親鳥からの給餌は洋上で行われます。

カンムリウミスズメ
の親子

カンムリウミスズメを取り巻く状況

カンムリウミスズメは、推定個体数が5, 000羽から10, 000羽と極めて少なく、ウミスズメの仲間で最も絶滅が心配されている種の１つです。

減少した主な要因

①繁殖地に、釣人が放置したゴミやまき餌にカラス類が誘引されたり、人の移動と共にドブネズミが入り込んだりし、捕食者となっています。卵やヒナだけでなく成鳥も襲われることがあります。
②近年の釣りブームや海洋レジャーの拡大により繁殖地に人が立ち入るようになり、卵やヒナが無造作に踏まれたり、撹乱によって親鳥が巣を放棄したりといった問題が生じています。
③刺し網による混獲や油汚染による死亡例が報告されています。

割られてしまった卵

カンムリウミスズメの保護

当会は、カンムリウミスズメの保護を進めるため、伊豆諸島を中心に調査や普及教育活動を行なっています。

調査結果を元に、関係団体に繁殖地を保護区に指定して保全するように働きかけています。2010年には大野原島、祇苗島が新たに国指定鳥獣保護区に指定され、新たにカンムリウミスズメの繁殖地が守られました。

カンムリウミスズメ
の繁殖地

カンムリウミスズメを調べる

伊豆諸島に生息するカンムリウミスズメについて、繁殖状況や個体数を調べました。また、適切に個体数調査やカンムリウミスズメの死体の識別を行うための予備調査も行いました。

生息状況把握のためのモニタリング調査

1）個体数調査

繁殖期に繁殖地の島を船で周回し、洋上にいるカンムリウミスズメの個体数を数えました。計４回調査を行ないました。

◆神津島（こうづしま）－恩馳島（おんばせじま）
調査回数：２回
調査時間：３時31分～６時
調査結果：４月18日348羽、５月18日402羽を確認。５月18日の調査ではヒナの姿も確認できました。

◆三宅島（みやけじま）－大野原島（おおのはらじま）
（自然ふれあい友の会主催、当会との共同調査）
調査回数：１回
調査時間：６時～８時48分
調査結果：４月12日92羽を確認。

◆御蔵島（みくらじま）・三宅島
調査回数：１回
調査時間：６時～11時10分
調査結果：５月14日１羽を確認。

2）繁殖確認調査

過去に繁殖記録がある島で、今シーズン繁殖をしていたかを確認するため島に上陸し、繁殖期には抱卵中の親鳥、巣内の卵、繁殖期後には卵殻や未ふ化卵、巣の数などを調べました。

◆神津島－恩馳島
調査回数：１回
調査結果：９月２日、島の南側で死体と卵殻を発見しました。後日、死体12個体と卵殻２個がカンムリウミスズメのものだと分かりました。

◆神津島－祇苗島（ただなえじま）
調査回数：２回
調査結果：４月17日、５月17日に上陸。巣内にある卵２個を発見。他にも、カンムリウミスズメのものと思われる羽毛を見つけました。さらに、巣の周囲にセンサーカメラを設置したところ、巣に出入りする成鳥が確認できました。

◆神津島・三浦湾、返浜
調査回数：１回
調査結果：９月３，４日に上陸。繁殖の可能性がありそうな岩場などをチェックしましたが、繁殖の痕跡は確認できませんでした。

◆神子元島（みこもとじま）
調査回数：１回
調査結果：３月27日に上陸。卵殻１個を見つけることができました。

岩場や崖で痕跡を探す

センサーカメラを設置

神津島の西南西へ約４kmに位置する無人島。隣接する大きな２つの島と複数の岩礁からなり、島の周囲は急峻な崖で囲まれ、平坦な部分はほとんどありません。

拾った骨の長さでカンムリウミスズメを識別する

カンムリウミスズメの繁殖状況のモニタリングのため、営巣している島に上陸し、繁殖の有無を確認する調査を行なっていますが、その際、カンムリウミスズメの死体が発見されることもあります。

９月に上陸した恩馳島では12個体分の死体を拾いました。腐敗しても長さが変わらない部位を測定しておけば、後日別の死体を発見した時、仮にバラバラになっていたとしてもカンムリウミスズメか他種かを識別するのに利用できると考え、全頭長（頭骨全体の長さ）、嘴峰長（頭骨のうち嘴だけの長さ）、竜骨突起長（胸骨の突起の長さ）、ふしょ長（かかとからつま先までの長さ）などを測定しました。測定結果は表に示したとおりです。

伊豆諸島の島々には、カンムリウミスズメの繁殖の可能性がありながらも確認はされていない島がいくつかあります。今回の計測値が、カンムリウミスズメの新しい営巣地の発見につながることを期待しています。

表．カンムリウミスズメの測定値

平均値（mm）			
全頭長	嘴峰長	竜骨突起長	ふしょ長
54.8	26.2	69.8	25.1
（59.6）	（29.0）	-	（25.0）

上段は骨の測定値、下段の（　）は嘴鞘や皮膚が残っていた場合の測定値を示している。

恩馳島で発見したカンムリウミスズメの死体。営巣できそうな岩の隙間に挟まっているかのような状態で発見された。

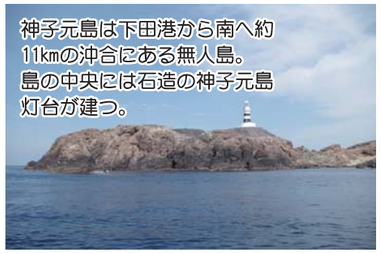
これまでの取り組み

保全	**繁殖状況モニタリング調査**	
	２００９年～	繁殖個体数や繁殖状況に変化がないかを確認するための調査です。この調査を継続することで、繁殖状況などに変化があった時に、早期に発見し対策を講じることができます。 ● 上陸調査　カンムリウミスズメの繁殖地に上陸し、繁殖の有無や巣の数を記録 ● 洋上調査　本種が採餌のために海へ出る夜間から早朝にかけて島を周回し個体数を記録 伊豆諸島の総繁殖個体数を推定するため一斉調査を実施
	保護区指定	
	２００９年～	繁殖地を確保、保護するため、鳥獣保護区などに指定されるよう働きかけています。
	非繁殖期の洋上分布調査	
	２０１０年～	繁殖後の生息地や移動経路がよく分かっていないため、非繁殖期の生息海域を調査し、保全すべき海域を明らかにします。
	人工巣設置実験	
	２０１０年～	繁殖個体数や繁殖成功率を上げるため、人工巣を設置して営巣条件を明らかにします。繁殖状況モニタリングの際に自然巣の形状や位置などを調べ、人工巣の改良に活用します。
普及	多くの方にカンムリウミスズメの置かれている状況を知ってもらい、本種の保護のために一緒に行動できる人を増すための活動です。繁殖地周辺に住む住民に向けて、観察会、講演会、コンサートなどを行なっています。	

繁殖をサポート

人による攪乱や捕食者の移入などの影響で減ってしまった営巣数を増やすために人工巣を設置し、その効果を調べています。

人工巣設置実験



◇ 神子元島の繁殖の記録

1983年　卵殻３個（灯台周辺石垣）、１巣（岩の割れ目）

⇩

記録なし

⇩

2012年　卵殻１個
2013年　１巣（２卵）、巣を出入りする成鳥２羽（岩場）
2015年　卵殻１個（灯台周辺石垣）

◇ 神子元島への人工巣の設置

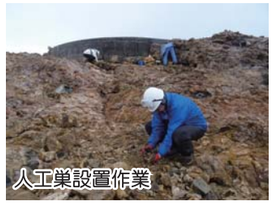
2010年　営巣数を増やすために、海に近い開けた場所２ヶ所にＵ字溝を利用した人工巣を設置しました。

⇩

人工巣を利用した痕跡はありませんでした。

⇩

2014年１月21日　人工巣の形と設置場所を変更しました。巣の利用を確認するためにセンサーカメラを繁殖期が終わるまで設置します。

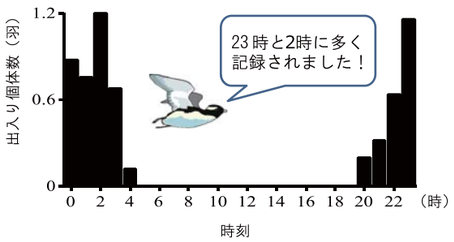

人工巣設置作業

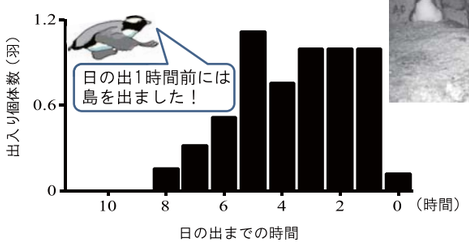
改良した人工巣

自然巣の情報をもとに改良しました。新しい人工巣は長さ１ｍのＵ字溝を半分にして岩場にそわせるように置き、周りを石で覆いました。場所は、1983年と2013年に自然巣を見つけた場所の近くと、地形や海との距離、地面の状態から営巣に適していると考えられる場所を選びました。

カンムリウミスズメの個体数を把握する

祇苗島でカンムリウミスズメの巣の周りにセンサーカメラを設置し巣に出入りする個体を撮影し、その時間との関係を調べました。カンムリウミスズメは、日中は片親は巣で、もう片親は海で過ごします。20時から４時までの間、海に出ていた個体が戻って来るなどさかんに巣に出入りしていることが分かりました。また、日の出の１時間前には日中を海で過ごす個体が海に戻っていくことも分かりました。そこで、片親が島から海へ戻った直後である日の出前に繁殖地周辺の洋上で個体数カウント調査を行なったところ、日中に個体数を数えた時よりも多くの個体を確認することができました。このことからカンムリウミスズメの繁殖個体数を調べるには日の出前が一番良いということが分かりました。





サポーターを増やす

カンムリウミスズメの魅力や生態、保護の必要性などを多くの方に知ってもらい、保護活動を一緒に行なったり、サポートしたりしていただける方を増やすために、繁殖地周辺地域でコンサートや講演会、観察会などを行なっています。

カンムリウミスズメを知る・学ぶ

三宅中学校の３年生のみなさんと身近な海に住む貴重な海鳥「カンムリウミスズメ」を、繁殖地の一つ大野原島周辺に見に行きました。大野原島は三宅島から西に約10km沖合にある岩礁の島で、三つの突岩が見えることから別名「三本岳」と呼ばれています。

４月19日（土）　～事前に学ぶ～

三宅中学校の３年生３人と先生がアカコッコ館に集まり、レンジャーが先生役となって、観察に行く前に知っておきたい海の環境や海鳥、保護の取り組みなどについてスライドや実寸大のぬいぐるみなどを使って勉強しました。

乗船前、レンジャーから話しを聞く

目をこらして波に浮かぶ姿を探す

４月27日（日）　～漁船に乗って観察～

救命胴衣に身を包み、観察時のルールや注意事項をしっかり確認したら漁船に乗って出発。

出港直後にクロアシアホウドリやオオミズナギドリの大群に間近で遭遇して大興奮。島に近づくと目的のカンムリウミスズメが波間に見え隠れしているのを発見。みんなで個体数を数えました。合計で39羽を見つけることができました。

～感想～　カンムリウミスズメの観察会に行って…

「僕は今回カンムリウミスズメの観察会に行ってみて、カンムリウミスズメが海に潜る様子や、エサをとる様子を見れてカンムリウミスズメの野生の暮らし方を知れて感動しました。この体験をいろんな人に伝えてカンムリウミスズメの貴重さをより多くの人に知ってもらえたらとても良いと思います。」

活動一覧

- ４月12日　三宅島・大野原島　洋上調査
- ４月17日　神津島・祇苗島　上陸調査
- ４月18日　神津島・恩馳島　洋上調査（早朝）
- ４月27日　三宅島・大野原島　三宅中学校観察会
- ５月14日　三宅島・御蔵島　洋上調査
- ５月18日　神津島・恩馳島　洋上調査（早朝）
- ９月２日　神津島・恩馳島　上陸調査
- ９月３・４日　神津島・三浦湾、返浜　上陸調査
- １月21日　神子元島　人工巣再設置
- ３月27日　神子元島　上陸調査